

して、生にて食ふに美味あり、かの人常の果とす、又杏核の兩面を磨して、小孔を明て笛となし、雉子をどるに用て、雉子笛といふとぞ、杏花は五瓣淡紅にして、かゝへて開き、満開はせざるなり、又八重なるは満開す、大和本草に、一種花紅にして、八重なるあり、花大なり、單花に後れて開く事十餘日、俗名六代、其木ひき、時花を見るによし。○略 中此花開かんとする時甚美し、今六代と呼花玄れず、今八重あんす、花あんすといふは大輪なれども、淡紅にして紅とはいひ難し、苔尤紅なり、その背の夢の邊は鮮紅なれば、舊より半開の裏は美なり、されば昔六代と呼し種となしても佳なり、又もちむめあんすむめ、梅品 怡顔齋味酸からすといひ、通 韵勝園梅譜にも、實の甘きこと杏のことしあるは誤なり、杏の類多く有といへども、皆實の形狀にて名を異にせり、又花戸にてあんすだちと稱する梅多し、三國一酒中花と呼、梅杏に接ざれば活せず、岩崎常正曰、つらゆきと呼梅實は、核肉を離れて、杏のごとじといへり、又杏條下に巴旦杏あり、アメンドウ、アメンドウス、又アメンテルともいふ、和産なし、又アメンドウと云あり、是は壽星桃なりと、本草綱目啓蒙に見えたれども、壽星桃はアメンドウスといふ桃なり、スマ、ノアメントウは牛心李なり。

(大和本草十  
果木) 杏カジモ、其花紅梅ニヲクレ、桃ニ先ダツ、花ウルハシク、子ハ果トシテ食シ、其内ノ仁ハ藥トシ、又食品ニ加フ、香味良、世俗ニ杏子唐音ヲヨンデアンヅト云、仁ニアンニント云、和名カラモ、杏子ヲホシテ果トスルモヨシ、一種花紅ニシテ八重ナルアリ、花大ナリ、單花ニ後レテ開ク事十餘日、俗名六代、其木ひき、時花ヲ見ルニヨシ、長ジテハ切ベシ、此木高キヲ切レバ、又早ク榮ヘ長ズ、故ニヒキキニ花サクヲ見ルタメ、高キヲ切ナリ、菊ニモ六代アリ、是モ長ジテ切ベシ、平氏ノ重盛ノ孫六代年長ジテ切レシナリ、此花初開カントスル時甚美シ、花衰謝スル時アシ、實ヲ結ブ事稀也、李惟熙曰、桃杏雙仁者殺人、其花六出失其常故也、時珍云、素麪豆粉近杏仁則爛、杏ハ根